うつくしきちごの、いちごくひたる、

わかき人とちごは、こえたるよし、○略中　よろづよりは、うしかひわらはのなりあしくてもたるこそあれ、こともものどもはされど去りにたちてこそいけ、さきにつとまもられいくもの、きたなげなるは心うし、

〔枕草子七〕つれ〴〵なぐさむる物

三四ばかりなるちごの物おかしういふ、又いとちいさきちごのものがたり去たるが、忘みなど去たる、

〔枕草子八〕うつくしきもの

みつばかりなるちごの、いそぎてはひくる道に、いとちいさきちりなどの有けるを、めざとに見つけて、いとおかしげなるをよびにとらへて、おとななどにみせたるいとうつくし、　あまにそぎたる兒の目に髪のおほひたるを、かきはやらで、うちかたぶきて物など見るいとうつくし、たすきがけにゆひたるこしのかみの、去ろうおかしげなるも見るにうつくし、　おほきにはあらぬ殿上わらはの、さうぞきたてられて、ありくもうつくし、　おかしげなるちごの、あからさまにいだきて、うつくしむほどに、かひつきてね入たるもらうたし、○略中　いみじうこえたる兒の二つばかりなるが、去ろううつくしきが、二あねのうすものなどきぬながくて、たすきあげたるが、はひ出くるもいとうつくし、　やつ九つ十ばかりなるをのこの、聲おさなげにて文よみたるいとうつくし、

〔宇治拾遺物語一〕これも今はむかし、比叡の山にちごありけり、僧たちよひのつれ〴〵に、いざかいもちいせむといひけるを、このちご心よせにきゝけり、さりとて去いださむをまちて、ねざらむもわろかりなむと思て、かた〴〵によりて、ねたるよしにて出くるを待けるに、すでに去いだ